

米国 カリフォルニア州のサクランボは出荷開始が遅延

FreshPlaza 2023年4月17日

カリフォルニア州の3月の不安定な天候は、同州のサクランボの出荷シーズンに関して何を意味するのだろうか? デルタ・パッキング社のニック・ルーシッチ氏は「見通しは良好で、作柄は平均を上回ると楽観視している」と述べ、サクランボ出荷量の10年平均は620万箱だと指摘する。(以下「」は同氏の発言)

3月の降雨などにより、生産者らはサクランボ園の開花について思い悩んだ: 花は受粉したのだろうか? ミツバチは働くことができたのだろうか? 十分に暖かかったのだろうか? 「現状では着果しているので、天候は受粉するのに適しており、十分な受粉の機会があったようだ。」

同氏は、一部の園地では開花時期が良くなかったかも知れず、一方あまり離れていない別の園地では良好なようなので、こうしたムラを考えると記録的な出荷量にはならない可能性が高いと述べている。「着果するかどうか少し心配していたが、今の状況を見て喜んでいる。」ストックトン、リンデン、ロディなど州の北部での着果はまだどうなるかわからないが、当初の兆候としては良好なようである。

タイミングに関しては、冬の長さやゆっくりとした冬の終わり方が作物の成長を遅らせている。「それは悪いことではない。この遅れのために収量が減るわけではない。開花期が長くなっているかもしれない - 通常はもっと短い。そのため、受粉が進んでいることはわかっているが、どれくらい受粉できたかはわからない。」

メモリアルデーの販売促進

ここ数年、カリフォルニア州のサクランボの大部分は5月に収穫・梱包され、6月になると最後の3分の1が梱包された。「今年は逆で、5月に3分の1が梱包され、残りが6月に梱包される可能性がある。これは大きな変化だ。」つまり、メモリアルデー(戦没将兵記念日。5月の最終月曜日)の販促に利用できる果実があり、その後にも販促の機会があることになる。「6月になる頃には小売業者らはよそ(ワシントン州)に目を向け始めるかもしれないが、今年は我が州としては6月1日にピークを迎え、サクランボの販売に絶好の機会となるはずだ。」

ワシントン州も気温が低いいため、収穫が遅れる傾向にあるようだ。カリフォルニア州産といつも競合するが、通常は約1週間以内である。今年は6月中旬頃に重複する可能性がある。

需要に関しては、天候も今年のサクランボ需要の増加を後押しするかも知れない。ルーシッチ氏は、サクランボと小売店の売り場のスペースを奪い合う初夏の果実の多くは量が少ないか品質が良くない - 核果類(スモモ等)は少なく、イチゴとブルーベリーは難しい状況にあり、スイカは遅くなるかもしれない - と述べている。それに加えて、おそらくワシントン州産の出荷が遅くなるということは、カリフォルニア州産のサクランボの需要が増える可能性があることを意味する。(以下省略)

南アフリカ産グレープフルーツ 日本市場は品薄だが低調

FreshPlaza 2023年4月18日

南アフリカ産グレープフルーツを日本に運ぶ最初の船は、先週末、通常より1~2週間早くダーバン港で積み込みを行った。ある輸出業者は、「通常、南アフリカ産のグレープフルーツは6月の初めに到着するが、この荷はやや早く到着する」と言う。

フードスプロイト地区ではグレープフルーツの収穫を通常より早く始めた。通常は復活祭(今年は4月9日)の後で始まるが、今年は4月の初めに梱包が始まった。第14週(4月上旬)までに、130万箱が梱包され、61%がEUに、17%(前年同期は32%)がアジアに、15%(同3%)がロシアに出荷された。

ある輸出業者は、「日本では市場が空っぽだ。通常はフロリダ州産とカリフォルニア州産のグレープフルーツがあるが、今年はかなり少ない」と言い、他国の経済と同様に、日本の経済も圧迫されているとして、「品薄にもかかわらず、市況はよくない」と述べた。

これまでにヨーロッパと中国に向けて出荷されたグレープフルーツは、まだ海上輸送中である。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン